

### 県畜産指導員(阿蘇)の場合

見わたす限りに広がる草原の彼方に、阿蘇の五岳がかすかに顔をのぞかせている

「乳質はどうか。」「はい、おかげさんですっかり良くなって、量もだいぶ増えましたばい。」

ここK牧場の監視舎の縁先きでは、牧場主と指導員の明るい対話が聞こえる。

現在、阿蘇・一の宮・産山の三町村で20の牧場があるが、うち18の牧場は乳牛が主。ある牧場で2等乳が出たという情報があるや、4人の指導員が一体となってこの問題解決に奔走する一幕もある。2等乳は商品にならないから、牧場はまったくのお手上げになる。このように、栄養のアンバランスなどから生じる牛の生理については指導員として慎重な配慮が必要になってくる。問題が起る前に、生草や乾草、サイレージなど、飼料の配合には、細心の注意と指導が行なわれている。

これからの高原酪農には、まだ多くの問題点が残されている。これらの問題を解決するために、「大規模牧場経営指導班」がつくられ、それぞれ専門の立場で、また相互間の連けいを取りながら、畜産経営者とともに総合的な研究と指導が続けられているのである。



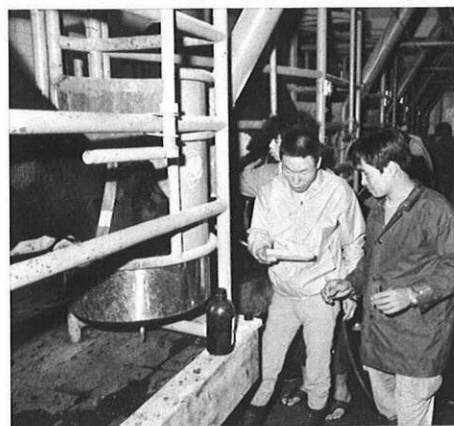
▲刈取った牧草の乾燥具合はどうか。



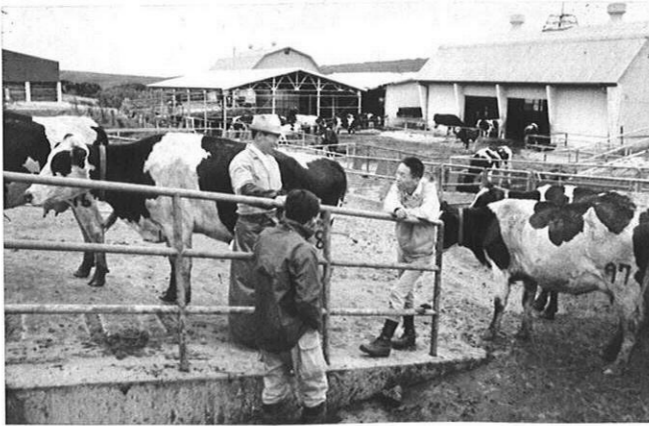
▲機械化されて種まきも能率的になった。



▲作業が終わった後の雑談も又楽しい……。



▲乳質検査は大事な仕事のひとつ。



▲組合の共同畜舎で、気軽に組合員と打合わせや相談を……。

八代その他でも、本当にやる気のある人ならば、よるこんで受け入れると思いません。

浜 先日県の肝入りで、経営者の方々とお話し合いをいたしました。どなたも農家労働力には大きな期待をかけられていることがわかって、私も大変心強いおもいがいたしました。

私ども農業者といたしましても、さきほど申し上げました農業の近代化という面からは勿論ですが、離農しようとする人たちが、熊本県の工業化に対しても、積極的に参加できるということからしましても、こんどの職業訓練には、大きな期待をかけているわけです。

職業訓練は、具体的にはどういう進め方をなさるのですか。

大石 実は労働省の計画というのが、これは十月から三月までの六ヶ月間で、全国で三千七百人を訓練するということになっております。一組三十人編成で、三ヶ月間の訓練をやるというわけです。

本県でもこの計画ののっとりまして、ことしは取りあえず百二十人の訓練を実施することになっています。十月の農繁期はさけて、十一月から来年一月までを第一回、一月から三月までを第二回、と二回に分けてやることになっております。

訓練期間は三ヶ月だということですが、その程度で技能を身につけることができるのでしょうか。

大石 ほんとうのところ六ヶ月は欲しいところですが、農家の人たちが余り長しばりつけておくのもどうかということ

で、とにかく三ヶ月間、ミッチリ実技を訓練して、あとはそれぞれの職場で必要な勉強を、実地でやってもらおうというわけです。

訓練職種は、溶接と配管の二つの職種だとかがっておりますが……

大石 そうです、溶接工は現在でも絶対数が足りません。それに日立造船が操業を始めますと、幾らでも必要になってきます。

配管も、水道、ガス、冷暖房、またはこの頃では農業の灌水施設など、最近急速に需要が伸びて来た職種で、業界では、沖繩にまで求人の手を伸ばしているような有様なので取りあげることになりました。

いまフィルムが出ておりますが、これは荒尾の総合高等訓練校での実習風景です。

大分火の粉が飛んでおりますが、危いことはありませんか。

三岡 そんなことはありません。誰でもやってみることで、溶接の場合は三ヶ月訓練で一応はやれるようになります。最近では女の人でもこなしております。

この写真は、熊本専修職業訓練校の配管科の実習風景です。三ヶ月でどの程度まで行きますか。

大石 部品がたくさんあるので、部品の名前が絶対覚えさせてくれ、ということでした。それからネジ切りとか、簡単な管の継ぎ合わせができる程度じゃないでしょうか。

職場ではチームを中心に数名の作業班を作って仕事をします。その中の一

員として、はじめは手伝いから始めて、次第にむづかしい仕事を覚えて行くのだそうです。そうして十年もすれば独立して店がもてるようになるそうです。

訓練はどこでやることになるのですか

大石 配管は、熊本訓練校に配管科がありますので、その施設を利用いたしますが、溶接は当分、鉄工団地の敷地を借りて、プレハブの実習場を建てることになっております。これは解体して移動することができまので、そのうち必要があれば、玉名にでも八代にでも運んで行って開設するつもりです。

訓練を修了した人たちに對する、業界の受入れ態勢はいかがでしょうか、三岡さん

三岡 私どもでは、溶接工は一人でも二人でも欲しいというのが、本音です。五十人や六十人は鉄工団地だけでも消化できます。全部合わせますと、二百や三百はいま直ぐでも、というところではないですか、日立造船が始まれば、このままだと極端に不足するでしょう。今回溶接を取り上げて頂いたことは全く適切であり、有難いことと存じます。

ところでこの頃、県外からの誘致企業と、従来の地場企業との間に、賃金水準のちがいがいることがいろいろいわれているようですが、この訓練を受けた人たちの待遇面はどうでしょうか。

三岡 私たちも経営の合理化、近代化をはかって、そういう賃金格差をできるだけ解消するように努力しておりますが、なかなか大企業のように参りません。お尋ねの点は、会社によって多少の相異

はありますけれども、生活給ということも考慮しまして、はじめのうちは月四万円内外、一年もたてば技術も上達してきますので、五万円位にはなるだろうと存じます。

配管工も、先日の業界との話し合いでは、ほぼ同じようなことでした。そこで如何がでしょうか、この訓練を受けようという人たちが、どれ位あるでしょうか

浜 私の方で、農業を今後ともつづけて行くか、それとも適当な職があれば、農業を離れたらと思うか、ということでも農家の志向調査をやっておりまして、まだ集計はしてありませんが、とにかく、百二十人位の訓練人員ではどうにもならないといった感じですね。

大石 いや、これは半年分ですから。希望が多ければ、来年、再来年と、人員も職種も、もっと広げて行きますよ。

三岡 私も業界としても、もっとこの制度を拡大強化していただきますよう、この機会にお願いしておきます。

大石 大切なことを忘れておりました。この訓練を受けられる人々には、人によって他少はちがいますけれども、大体月平均二万三千円前後の、訓練手当を差し上げることになっております。

お手当を頂きながら、技能を身につけることができるなんて、まことに結構な制度ですね。

(注) 十月三日放送熊本県提供 RKKTV「県民のひろば」を再録